

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出入口、スタッフルームに掲示及び、朝礼時の唱和すると共に、名札の裏に携行いつでも確認できるように理念の浸透への取り組みを行っている。又カンファレンスで協議し理念に基づいたケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、餅つき大会に地域の子供たちの太鼓を招き、演奏を披露して頂いたり、餅つきや餅を丸めるなど入居者と一緒に活動する機会を設けた。招き、毎月、地域の公園掃除や、年末年始の防犯パトロールにも加わり交流を深めている。また、中学校の職場体験、隣の専門学校からの実習生の受入を	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてGHの日常を説明し認知症への理解が得られるよう心がけている。又、職場体験の受入により人材育成、若年層へ認知症介護の理解が深められるよう努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、入居者の状況や行事などの報告を行い、出席者との質疑応答の際には施設側だけでなく包括支援センターや行政機関の担当者への質疑もあり参考にするべき事が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ毎回案内を行い、止むを得ず欠席の際には議事録を送付している。出席された際には、意見やアドバイスを求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で理解を深めている。また身体拘束廃止委員会にて各部門との意見交換を行い身体拘束を行わないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で理解を深めている。事例を基にグループワークを行い、防止策を話し合い未然に防げるよう、職員の意識付けを行っている。	

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で理解を深めている。当ユニットには制度の利用者はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書、運営規定を読み上げ説明し、不安や疑問点を確認しながら理解を得ている。契約時には必ず職員2名で行い、不十分なところを補えるよう配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者と接する中での会話や、家族の面会時などでの意見や要望は記録に残し職員が把握できるようにしカンファレンスや運営会議にて協議している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や施設内研修の中で意見交換を行い、法人内の運営会議において代表者を話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務状況、資格取得などの諸条件にて社員登用など、勤務条件の向上を図られている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたり制限は設けておらず、定年に達した職員も本人の希望、法人の条件などにより雇用延長を行っている。また、希望する休日が取得できるように配慮し社会参加の妨げにならないように努めている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修にて理解を深めている。入居者に対する人権を尊重するため、言葉遣いなど接遇には徹底指導されている。		

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を毎月開催している。外部研修参加への援助について法人からの補助体制が構築され、今後参加者の増加が見込めるようになった。また、各種資格取得のためのスクーリング出席の際、有給休暇取得ができた		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣のGHを招き、地域の人や包括支援センターを交えての会議を2回開催した。他GHより定期的に開催して欲しいと希望があり、25年度も開催する方向で検討している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた環境に近づけるため、使い慣れた物を持ち込んでもらい、傾聴、受容の姿勢で本人が望む生活に近づけ、新しい環境に馴染めるようコミュニケーションを大切にしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ等からの情報を基に、家族とも面談を行い要望や意見を伺い、ケアに活かすように努めている。離れて過ごす家族が安心できるよう連絡を密に取り信頼関係構築を図っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に寄添い、見守るケアを実践し行動や表情など言葉以外のサインを見逃さないよう対応している。新しい発見があれば介護計画に反映するように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	計算ドリル、創作活動、唱歌、体操など残存機能を重視し、寄添い一緒に活動し、笑いの絶えない生活を送れるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、遠方の家族にはお便りなどで日頃の様子を報告し、家族の要望を伺ったり関係が途絶えないように配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に馴染みの場所へ出かけられる。友人との面会はプライベートの観点により、事前に家族に確認を取り対応している。		

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性を考慮し、日頃の座席配置に配慮している。職員がサポートしながら入居者管の関係構築の援助を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居など退去した後も相談があれば対応できる旨を契約時、退去時に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関りの中で対話を重視し、思いや意見を把握するよう努めている。困難事例などはカンファレンスで情報を共有し、検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談やケアマネからの情報提供、家族からの情報を基に把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面談やケアマネからの情報提供、家族からの情報を基に残存機能、心身の状況の把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との対話の中からニーズを引き出し、カンファレンスにて介護計画を立案している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	送りノート、個人カルテに記録し情報共有している。新たな気づきがあればカンファレンスで取り上げ、介護計画への反映、ケアへの実践を行っている。		

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニットの目標でもある、入居者、家族、職員の輪を目指す為に、対話を多く取り、家族との連絡を密に行い要望を取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域住民、民生委員、包括支援センターを招き、意見交換、情報提供を行い、行事への参加を呼びかけている。近隣の中学、専門学校の職場体験、実習生を受入れ若年層との交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望があればかかりつけ医の受診を継続され、日々の状況など情報を伝えている。母体の整形外科と連携を図り医療支援を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護資格を持つ職員を介護職として配置し、協力体制を取っている。日々の生活の中で小さな変化をも逃さず、変化があれば報告、相談している。時間外にも連絡がとれ必要に応じて出勤している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者又は看護資格所有者が医療機関に訪問し主治医、MSW、看護師と情報交換を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者との会話の中で、退院後に「ずっと此処に居たい」など耳にし、家族には、事業所でできることを説明した上で納得され、Drと連携を取りながら支援している。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で看護職員がスーパーバイザーとして急変時、事故発生時の対応、応急手当、AEDの使用方法などの訓練、学習を行っている。		

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施。実際に消火器、消火栓を使用した消火訓練も取り入れ、消防署防災設備会社等の立会いの下、夜間想定訓練を実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけや対応を行い、視線ををあわせて傾聴し、個々の尊厳を大切にしている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で、思いなど受け止め記録し対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で、計算ドリル、唄、体操など取り入れ、自由に参加できるよう配慮している。本が好きな人には本を用意し、楽しまれている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の更衣は勿論の事、毎朝、休養後には整髪の声かけをして支援している。衣服を自由に選ぶ人も数名いるが、殆どの人が好みを聞きながらおしゃれができるようしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を流しながら、職員も同席し一緒に食事を摂り片付けをしている。食事内容の感想などを確認し、栄養士に伝え献立に反映させている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分補給ができるようにペットボトルを手元に用意している。茶話会でコーヒーや紅茶など好みの飲み物を提供している。水分量、食事量共にチェック表に記録している。		

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に見守り、一部介助で実施し、夜間は義歯洗浄剤に入れて清潔を保つようになっている。協力歯科医院の往診を受けることができる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に個々の排泄の状態やパターンを把握し適切なタイミングで誘導を行っている。オムツが必要な人には数種類のオムツの中で、より適している物を話し合い使用している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本とし、乳製品を多く取り入れ、適度な運動や、水分補給の管理を行い予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある人には、声かけタイミングや内容の工夫、時間や入浴日を変更して対応している。本人の体調に合わせて会話を交えてゆっくりと入浴が楽しめるよう配慮している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換、毎日のベッドメイクや換気を行い清潔な環境にしている。室温、湿度、採光に注意し寝具の調整にも配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方日に薬剤師の管理の下整理し、服薬時には名前、日付を声に出し本人と共に確認して服用している。薬剤師の訪問の際に、経過報告を行い情報共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の茶話会や唄を楽しまれ他者との交流を図れている。家事仕事は人気があり個々の残存機能に応じた役割を提供している。		

自己・外部評価表 せせらぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との連絡を密にして本人の希望を伝え、外出の機会を増やせるよう、特に準備、健康か管理面での支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安がる人には小銭を管理してもらい、紛失トラブルが無いように支援している。併設施設のバザーで買い物を楽しむことができる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴で十分に聞き取れない人には職員が代わりに伺い、判りやすく伝言している。年賀状や絵手紙を作り家族へ送っており、家族より驚きや喜びの声が聞かれる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や採光に配慮し、特に臭気には一番に気をつけている。共用部には季節の花や観葉植物を飾ったり、季節の飾りつけを一緒に作成、掲示をしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで歩行運動する人、自席でゆっくり読書をする人、家事仕事を職員と一緒にする人など様々でそれぞれの場所を常に安全と清潔を保つよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込み、家族との写真や手作りの作品など思い思いに飾っている。季節ごとに衣類・寝具に入れ替えに合わせて模様替えをされる家族もいる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新たな入居者のADLに合わせ手摺りを増設し、立ち上がり機能が改善し、移動も車イスから歩行に改善した。		